



企業家の責任

令和7年11月1日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

企業家は、社員の模範であり、社員は企業家の後を行うのである。それが企業そのものなのである。

そのため自らの行動が企業を与えるのである。これらが労働基準と意欲であり、それが企業を決定することができるのである。

社員は必ず企業家の後を追うのである。それが企業の正しい結果である。これらは優れたリーダーの正しい資質である。

そしてすべての責任を自己に有する。それにおいて企業の決定を行うのである。

これらは企業はリーダーにおいて決定されることを意味するものである。

優れた人材は必ず勤労性を有するものである。それを有することは、企業が未来を得ることそのものである。

これらが正しい企業風土の育成であり、経営判断が、また、その未来を決定する。

これらが正しい組織であり、企業における唯一の評価なのである。

これら基盤が時代性におけるシステムへの転換を与えるもっとも要求される企業基盤であり、それらが企業倫理性における企業経営の確立なのである。

歴史の興隆は、これを失うことにおいて、与えられることは正しい考察であり、システムとコンセンサスの育成が、組織の永続性を確立できるのである。

意欲という基盤が競争とともに現実を奪うのであり、永続する組織の育成は、正しいリーダーとシステムにおいてその確立を実現できるのである。

これが正しい永続する企業サイクルの構築なのである。

